

お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぼっくりぼっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポックリ、ポックリ



令和7年 2月 No. 363

〒760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松第二保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
https://oumanooyako.com



(厚生労働省・高松市委託事業)

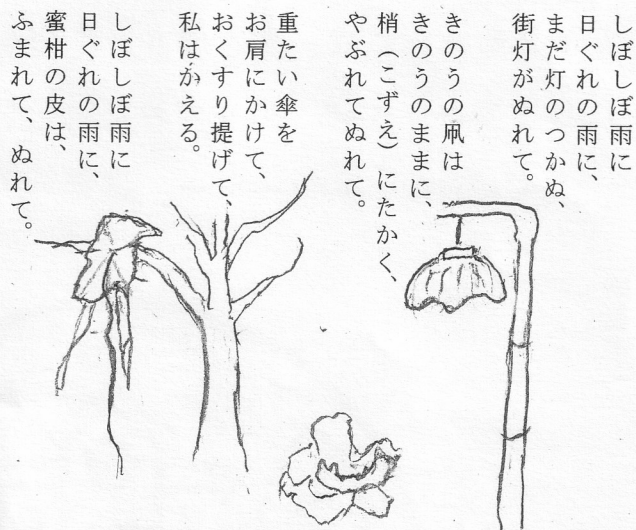
～どなたでも～			2月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
2月	4日 18日	火	体験保育 15:00～16:00	見学もかねて、園児たちといっしょに遊んでみませんか。
2月	7日 14日 28日	金	ヨガを楽しむ会 14:30～16:00	寒さでかたくなった体をほぐしてみましょ。
2月	11日	祝日	香川みずぐさんの会 9:00～16:00	かがわ市のとらまるパペットランドで人形づくりをしたり、インドネシアの影絵芝居の公演を楽しみます
2月	13日 27日	木	こうさぎおはなし会 15:00～16:00	雪や節分の鬼の話など2月ならではの話を楽しみましょ。
2月	22日	土	おとなアート 14:00～16:00	蛤(はまぐり)に色付けをし、春の訪れの華やかさを表現します。(準備のため2/18までに申込要)
2月	25日	火	自然の中のあそび体験 15:30～16:30	自分たちで竹パンを焼き、おやつづくりをします。

・月～金の12:00～17:00までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。  
(但し、土・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～金) 12:00～17:00  
しつけや子育てについての悩み、保育園生活、入園・見学についての相談もどうぞ。



金子みずぐ童話全集④  
「空のかあさま・下」より



寒のあめ

しぼしぼ雨に  
日ぐれの雨に、  
まだ灯のつかぬ、  
街灯がぬれて。  
きのうの風は  
きのうのままに、  
梢(こずえ)にたかく  
やぶれてぬれて。  
重たい傘を  
お肩にかけて、  
おくすり提げて、  
私がかえる。  
しぼしぼ雨に  
日ぐれの雨に、  
蜜柑の皮は、  
ふまれて、ぬれて。

## 藤田浩子プロフィール

1937年東京生まれ。疎開先の福島県三春町で昔話を聞き、裏山を遊び場にして育つ。結婚後は3人の子の母として、保育者として、文庫のおばちゃんとして過ごす。

【出版物】「遠藤登志子の語り—福島のみ話—」吉沢和夫氏共編(一声社)、「おはなしおばさんの小道具・続」(一声社)、藤田浩子の語り「かたれ やまんば1~4」、エッセイ集「しったかぶり」



## わるい言葉

藤田 浩子

おしゃべり会でも「わるい言葉」がちょっと話題になったのですが、幼稚園に通うようになって「わるい言葉」を覚えてきた、年上の子と遊んで「わるい言葉」を覚えた、テレビの影響で「わるい言葉」を覚える、というようなことはありませんか？

確かに2歳3歳までかわいい言葉を使って「チョーダイ」だったのに、突然「おれにもくれ！」なんて言いだしたらびっくりしますよね。これは子どもにとって「チョーダイ」より「くれ」のほうが魅力的に響くということであり、「Aちゃんはねえ」だの「Bちゃんどいてよ」だのとまだるっこしいことを言うより「おれさあ」「おめえどけよ」のほうが簡潔でカッコイイということなのでしょう。また「うんこ」「おしっこ」「でぶ」「たんそく」などは、それを言った時の相手の反応がおもしろくてエスカレートしていくということもあるようです。

ところで、「わるい言葉」ってなんででしょう？「食べる」はいい言葉で「食う」はわるい言葉でしょうか。「チョーダイ」や「ください」はいい言葉で「くれ」だの「よこせ」はわるい言葉なのでしょうか。「あげる」はいい言葉で「やる」はわるい言葉なのでしょうか。私の育った福島では「これをあなたにあげましょう」というとき、「これおめにくれっから」とか「おめえにやっつおい」などと言いました。「くわんしょ」というのは「めしあがれ」と同じで、ひとに食べ物を勧めるときの言葉です。



「ばか」という言葉もわるい言葉のひとつでしょうが、夫に急死された若い方が、数々の丁重なお悔やみの言葉より、夫の父親が死んだ息子に向かって言った「残る者のことも考えねえで…ばか！」が一番心に響いたという話も聞きました。

こうして考えてみますと、言葉のいいわるいより、その言葉が相手に心地よく響くか相手を傷つけるかということのほうが大事に思われます。幼い子が意気が出て言う「おれ」や「てめえ」も若者が使う「チョベリバ」もそれを言い合うことでお互いが楽しければいいと私は思っているのです。その言葉を聞いて相手が不快に思うなら、それはわるい言葉になるでしょう。言葉は相手にこちらの気持ちを伝える手段です。ですからひとつひとつの言葉より、それが相手にどう受け取られるかのほうが大事だと私は思っているのです。ということで子ども次々と覚えてくる意気な(?)言葉を半分は楽しみながら、その言葉を言われた相手がどう思うか、相手を傷つけることがないかどうか、その点をしっかり教えたいものです。と同時に言われていやな時には「いや」と言えることも大事ですね。



## 文明の進化と体の退化

世の中便利になりました。タイマー付きの暖房機があれば、朝ふるえながら布団から出なくても済みます。水道の栓をひねればお湯が出てきます。かまどの前にしゃがまなくてもご飯は炊きあがっています。お茶を飲もうと思えばジャーの中にお湯もあります。雨が降っていればクルマで外出することもできます。居ながらにして世界の動静がわかるテレビや、居ながらにして遠くの人と話ができる電話もあります。電話だけではありません。今はファックスやメールで一瞬にして情報を発信したり、受け取ったりすることができるようになりました。使い捨てのものがたくさん出てきたので、主婦はずいぶんらくになりました。昔はお酒

を買うならとつくりを、豆腐を買うならどんぶりやなべを持って買いにいったのに、今は手ぶらで行かれます。おむつも洗わなくて済むようになりました。たとえ洗うとしても自分の手で洗うのではなく機械が洗ってくれます。毎日買い物に行かなくても冷蔵庫があれば買いだめができます。買ってくるものも、泥のついたままの「葉」や「根」でなく、または血のしたたる動物の「死体」ではなく、きれいにパックされた「食品」になっています。モトはどんなものだったかもわからなくなってしまいました。

便利になるということは「進化」なのでしょう。まあ世の中としては進化かもしれませんが、人間としては「退化」でしょうね。私より1世代上の人達は空を見て明日の天気を予想しました。私の知っている小父さんは、まず人さし指をなめて、その指を顔の前にもってきて明日の天気を当てました。それが必ず当たったかどうかは知りません。でもその指先の感覚から、指先から立ちのぼる唾の湯気から、何かを感じる能力を持っていたのです。庶民は字が読めなかった時代700話800話と昔話を覚えている人がたくさんいました。三味線や琴だって楽譜なしで教えられたときは、お師匠さんの弾くメロディを必死で覚えました。ミシンがないときたいの女は縫い目を揃えてまっすぐに縫えたのです。肥後守(ナイフ)一本でなんでも作ってくれる人もたくさんいました。便利になればなるほど、私達の体は退化してきました。

そんななかで、私達がこれ以上不器用にならない為にも体を退化させない為にも、もっともっと「手」を使い「足」を使いましょう。朝起きた時にぶるぶるとふるえる、冷たい水で顔を洗う、そのことで肌が刺激されます。これから体を作っていく子どもたちには、寒さ暑さをそのまま体験させて、体に刺激を与え、使い込んだしなやかな手足、張りつめた肌をプレゼントしたいですね。

著書「おかめはちもく」より

